

Web版 図書館し が

滋賀の伝統工芸 - 図書館で見る匠たちの技 -

[伝統工芸・伝統的工芸品について] (知る)

伝統工芸というと、古びてしまったもの、今の私たちの生活には直接関係ないものというイメージがあるかもしれません。

しかし、長い歴史の中で培われ、地域の人々の生活と密着しながら受け継がれてきた伝統的な品々は、驚くような熟練の技で今も生み出されているのです。

滋賀県では、伝統的工芸品の振興を図るため、昭和58年に指定制度を設け、現在40品目(平成20年3月現在)の工芸品が指定されています。『滋賀の伝統的工芸品』(滋賀県商業観光振興課2008年)にその一覧と解説が載っています。



(草木染手組組紐 - 江戸時代に発明された内記台)

ふるさと滋賀をふりかえり、手づくりの伝統美と技を、一人でも多くの方々に、眼にも心にも味わっていただければと考えました。

INDEX

- ・(特集) 滋賀の伝統工芸 図書館で見る匠たちの技..... 1 ~ 3面
- ・ひとくち源氏物語 2. 逢坂の関..... 3面
- ・郷土資料紹介..... 4面

図書館の催し

紫式部と源氏物語関連資料展（開催中）

「源氏物語～すぐれてときめきたまふ～」
8月31日（日）まで 2階 参考資料室

定例おはなし会

9月19日（金）
午前11時と午後3時の2回 1階 談話室

ライブラリーコンサート

9月14日（日）午後5時 集合広場
吹奏楽団「木曜組」
第20回夕照の庭コンサート

同和問題啓発資料展

9月3日（水）～23日（火）まで
2階 参考資料室

夏休み子どもおはなし会

8月8日（金）午前11時と午後3時の2回
地下1階 大会議室

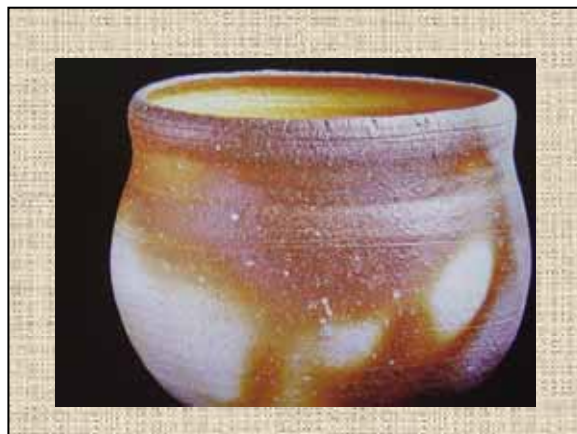
お知らせ：9月24日（水）～30日（火）は、特別整理期間のため休館いたします。

〔国指定の伝統的工芸品〕（見る）

信楽焼・彦根仏壇・近江上布は国指定（経済産業大臣指定）となっています。

焼く / 信楽焼

信楽焼は、長い歴史と文化に支えられ、この地の伝統的な技術によって今日に伝えられ、日本六古窯のひとつに数えられています。信楽焼の特徴は、信楽特有の土味を生かして、穴窯・登窯の焼成によって得られる温かみのある火色（緋色）の発色と自然釉によるビードロ釉と焦げの味わいに特色づけられ、土と炎が織りなす芸術として、信楽焼独特の「わび」「さび」を残し今日に至っています。『絵で見る信楽焼』（信楽焼振興協議会 2002年）には時代別主製品の推移がわかる歴史図録が載っています。



（国指定 伝統的工芸品 信楽焼）

彫る / 彦根仏壇

彦根仏壇の起源は、江戸中期頃と言われ彦根藩の奨励を受けて発展してきました。京都・名古屋の仏壇とともに最も歴史の古い塗り仏壇です。仏壇造りは、俗に「七職」（しちしょく）といわれそれぞれの行程で、それぞれ伝統の手作業により制作されています。その行程と技法が『淡海の手仕事 彦根仏壇』（彦根仏壇事業協同組合 1996年）の工芸編に詳しく記されています。

織る / 近江上布

近江上布とは、湖東地方に伝わる麻織物です。鎌倉時代に、京都の職人がこの地に移り住み、技術を伝えたのが始まりといわれています。彦根藩が技術を保護し、農家の副業として奨励されると、そのことでより安定した地場産業となり、やがて、近江商人によって全国に伝えられたそうです。『今に伝わる近江上布の織りと染め』（秦荘町教育委員会 2004 年）には匠の作業場での様子を見ることが出来ます。



[県（県知事）指定の伝統的工芸品の中から]

次に、広く湖国の伝統的工芸品に目をむけ、日常生活に関わりの深い品目を取り上げてみました。

組む / 草木染手組組紐

大津組紐の材料は、絹糸が使われ、染めも高級品は草木染をしています。現在、組紐というと主に帯締めや羽織紐に使用されていますが、大津組紐は、江戸時代中期に膳所藩士が刀の下緒（さげお）などを作ったのに始まります。京都市・伊賀上野市に次ぐ代表的な組紐産地です。昔ながらの美しい色彩・組目がわかる貴重な資料『くみひも』（民俗文化研究会 1969 年）があります。

描く / 大津絵

大津の代表的民芸品である大津絵は、古くは東海道を旅する人々に「みやげ絵」として売り出されたのが始まりで、絵柄は鬼の寒念仏・藤娘・弁慶など数多く、ユーモラスでのびのびとした手法が特徴です。大津市歴史博物館で開催された企画展の展示解説図録『大津絵の世界』（同館 2006 年）や『大津絵』（高橋松山著、東方出版 1993 年）などでお楽しみください。

塗る / 和ろうそく

ろうそくの原料はハゼの実で、煙が少なく仏壇に優しい材料です。竹の串に灯芯を差し、右手で竹の串をころがし、左手でろうを塗りつけていきます。

漉く / 近江雁皮紙（がんびし）

成子ちか氏（（有）成子紙工房）は、県指定無形文化財です。雁皮紙は滑らかな紙肌をもち、光沢があり、「紙王」と称されました。当館所蔵資料『近江雁皮紙』（久米康生著、紫紅社 1983 年）を中心に“紙の魅力”を味わってください。

削る / 高島扇骨

全国扇骨生産の 90% を占める高島扇骨は、300 年の歴史を有する伝統産業です。34 の工程を経て仕上げられ、中でも白干しと称する「天日干し」はこの地の風物として有名です。今も確かな需要を背景に、伝統の技術は息づいています。当館のホームページにある『新聞記事検索』で“扇骨”をキーに調べると、100 件余りの掲載記事見出しが確認できます。



高島扇骨の白干し

縫う／鼻緒

長浜市の特産品“ビロード”を使ったこの下駄の鼻緒は、全国の生産の大半を占めています。加工は、そのほとんどが家内工業として行われており、そのことが、長浜花緒（鼻緒）を息長く続かせている要因のひとつであろうとされています。

【伝統的工芸品産業を守る】（考える）

いま滋賀県の伝統的工芸品産業は、技術伝承のための後継者育成や原材料の確保、伝統を失わない方向での作業の合理化、作業環境の改善など共通した問題点をかかえています。しかし、私たちは心の豊かさをもたらしてくれるこの工芸品と、次の世代に受け継いでいこうとする匠の技に、これからも息吹を送り続けなければなりません。

今月のBOOKまーく

図書館で本を開くということ



ある日、「こんなにたくさん借りるつもりはなかったんですけど・・・」と、カゴいっぱいに入れて貸出カウンターに来られた方がありました。図書館の本棚は、あなたが探していた本の場所から隣に並んでいる他の本にも興味が湧いてくる...そのように構成されています。

本の内容により一冊ずつ分類番号を付け、その番号に応じて貼られたラベルで本が並べられているので、内容の近い本が隣り合って並ぶことになります。未知の扉の世界を叩くように、棚から棚へといろいろな本を手にとって開いていくうちに、どんどん興味が拡がり、あなたにとっての一冊がきっと見つかることでしょう。

読書や調べものに疲れたら、その時は場所を変え気分を変えて外の空気を吸ってみるのもお勧めです。テラスへは、1階の雑誌コーナーから出ていただけです。テーブルやベンチもありますので、借りた本をここで風に吹かれながら時間を忘れのんびりと楽しむこともできます。

同じ図書館のなかでも、自分にとって居心地がよい場所は、人によって様々なようです。どうぞあなたの場所で、あなた流の読書をお楽しみください。



ひとくち源氏物語 2. 逢坂の関

「逢坂」は大津市南西部と京都市山科区の境付近に位置します。古代より交通の要衝であったこの地には、関が設けられていました。平安時代以降、京の都を通過するには、必ずこの逢坂関を越えなければならず、この境界の地は「別れ」の象徴としても数々の歌が詠まれています。

小倉百人一首のなかの、蝉丸による「これやこのゆくもかえるもわかれては知るもしらぬも 逢坂の関」は耳に馴染みのある歌です。

「逢坂の関やいかなる関なれば繁きなげきの中をわくらん夢のよになむ」

これは、源氏物語の十六帖「関屋」のなかで、空蝉が詠んだ歌です。光源氏からの久しぶりの便りに空蝉は、気後れがしながらもこらえきれずにその深い嘆きを歌に詠みます。逢うという名の逢坂の関で邂逅（かいこう）してしまったばかりに、空蝉の嘆きはまた重ねられてしまうのでした。

現在、「逢坂」を越えるこの道は、滋賀と京都を「結ぶ道」として多くの車が行き交います。

(逢坂の関跡)



FLASH ふらッシュ

土曜サロン 『裁判員制度ってなに？』

平成21年5月からの制度開始にあたって、6月の土曜サロンは、広報映画「審理」の上映と、裁判所職員の方による制度の説明が行われました。

映画は、裁判員に選ばれた主婦が、裁判官の説明を受けながら審理に参加していく様子を描くことで、刑事裁判の状況がわかるように構成されており、当日参加いただいた皆さんも、真剣にご覧になっていました。

この映画のDVDは、当館から貸出も行っておりますので、是非ご活用ください。



湖 国 の 本 棚

『あっちゃんとブっちゃん』

井上こみち・文 狩野ふきこ・絵 文溪堂
2008年 1,300円+税



主人公のあっちゃんは、生きものが大好きです。あっちゃんが飼っている犬のブっちゃんも、あっちゃんのが大好きです。

あっちゃんはある日、『ミトコンドリア脳筋症』という病気に襲われます。まだ治療法が見つかっていない病気です。体の右半分の感覚がまひし、一度は声もでなくなってしまうあっちゃんですが「見たい、知りたい、調べたい」という気持ちがとても強かったので、持ち前の明るさや優しさを失うことはありませんでした。きれいな水の大切さをお父さんから教わったあっちゃんは、川に住む生き物のことを思って、環境を守る大切さを人に伝えることができる女の子に成長しました。あっちゃんは、1980年8月1日に今の米原市に生まれました。21歳の生涯でした。人に対する愛情、生きものや自然を大切にする気持ち、それは必ず相手にも伝わるのだということをおっちゃんが教えてくれる、そんな一冊です。

今月のデジタルアルバム帖 8・9月「紫式部と近江 - ゆかりの地を訪ねて - 」

平成20年(2008年)は、源氏物語が記録のうえで確認される時から、丁度一千年を迎えます。源氏物語は、石山寺に参籠(さんろう)した紫式部が須磨と明石の構想を立てたと伝えられています。そこで今回は、紫式部や源氏物語にゆかりある石山寺や延暦寺などの地や、関連する資料を紹介します



郷土資料紹介

石山寺の信仰と歴史

綾村宏編 思文閣出版 2008年

比叡山仏教の研究

武覚超著 法蔵館 2008年

びわ湖検定公式問題解説集

Mother Lake 宝物の再発見

びわ湖検定実行委員会編刊 2008年

モリアオガエルとともに さあ、山門水源の森へ

伊藤博[ほか]編 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会 2008年

近世の宗教と社会 1 地域のひろがりと宗教

青柳周一[ほか]編 吉川弘文館 2008年

野望！武将たちの関ヶ原 参戦武将63人の戦い

新人物往来社 2008年

こどもの心・おとなの眼 人間・障害・思想

高谷清著 クリエイツかもがわ 2008年

比叡山諸堂史の研究

武覚超著 法蔵館 2008年

黒田官兵衛 稀代の軍師

播磨学研究所編 神戸新聞総合出版センター 2008年

平成20年5月～6月購入・寄贈分

気楽に元気で 滋賀の市民社会のカタチ 淡海ネットワークセンターの10年

淡海ネットワークセンター（財団法人淡海文化振興財団）編 サンライズ出版 2008年

湖辺の四季 加藤孝和日本画作品集

加藤孝和著 加藤孝和刊 2008年

城下町彦根を描く 小田柿寿郎画集

小田柿寿郎著 サンライズ出版 2008年

緑影会写真集 創立57周年記念

緑影会写真集編集委員会編刊 2008年

比良山荘の一年 京の山里かくれ宿

奥谷仁，さとうあきこ著 集英社 2008年

近江路を歩いた人々 旅日記にみる

江竜喜之著 サンライズ出版 2008年

びわ湖環状線に死す 長編推理小説

西村京太郎著 光文社 2008年

上山田の歴史と文化 上山田カルタ解説図録

上山田カルタづくりボランティア編刊 2008年

豊ママのセキララお気楽日記

豊田令枝著 豊ママ舎 2008年